



日産化学株式会社

2026 年 3 月期 第 1 四半期決算説明

電話会議

説明者

取締役副社長 CFO 大門秀樹

2025 年 8 月 8 日

大門：日産化学の大門でございます。本日はご多忙のところ、ご参加ありがとうございます。それでは 1Q 決算の説明を申し上げます。

2025年度1Q決算サマリー



1Q

前年同期比

- 売上高は112億円増収(+19%)
- 営業利益は37億円増益(+25%)
- 純利益は23億円増益(+20%)
- 売上高、営業利益、純利益は過去最高を更新

1Q

業績予想比

(2025年5月発表予想との比較)

- 売上高は49億円上ぶれ
- 営業利益は10億円上ぶれ
- 純利益は17億円上ぶれ

2025年度 業績予想

- 上期および通期の業績予想は、2025年5月発表より修正なし
(各セグメントの業績予想も同様に修正なし)

株主還元

- 自己株式取得は、合計105億円を予定(2025年5月発表済み)
2025年4月に15億円取得終了、
2025年5月～2026年3月に90億円取得予定

4

説明会資料の4ページでございます。1Qの決算サマリーということで、一番上の箱が前年同期比でございます。売上高で言うとプラス19%、112億円の増収。営業利益はプラス25%、37億円の増益。純利益はプラス20%、23億円の増益ということになりました。数字は後ほど申し上げますが、売上高、営業利益、純利益は過去最高を更新したという形になっております。

またその一つ下の業績予想比でございますが、これは5月の発表値との比較ということですが、売上高、営業利益、純利益で、それぞれ記載のとおりの上ぶれということになっております。なお、25年度の業績予想につきましては、5月に発表した数字から変えておりません。上期および通期、それから各セグメントも、今回は変えていないということで、通常当社の場合はこの1Q決算の発表時には変えていないということでございます。

一番最後の株主還元でございますが、自己株取得は5月に発表済みでございますが、合計105億円を今年度は予定ということで、既に4月に15億円取得済みでございますが、この5月から3

月にかけては残りの 90 億円、これを取得予定ということでございます。これも変わっておりません。

2025年度1Q決算サマリー 前年同期比



	(億円)		
	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比
売上高	587	699	+112 (+19%)
営業利益	144	181	+37 (+25%)
営業外損益	16	0	-16
為替差損益	13	-7	-20
経常利益	160	181	+21 (+13%)
特別損益	0	0	0
純利益※1	116	139	+23 (+20%)
EBITDA※2	180	214	+34
EPS(円/株)	83.78	102.20	+18.42
売上高営業利益率	24.6%	25.9%	+1.3pt
為替レート(円/ドル)	156	145	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

具体的な数字、5 ページでございます。

こちら、前年同期比ということで、1 年前の 1Q との比較でございます。数字で申し上げますと、右から 2 列目の売上高が 699 億円でございました。また、営業利益が 181 億円、それから経常利益で 181 億円、純利益で 139 億円ということでございました。

為替レートにつきましては、24 年度、昨年度の 1Q は 156 円と、ドル円で、ということでございましたが、今年度の 1Q は 145 円というのがこの 3 カ月の平均ということでございました。対ドルで約 11 円円高ということでございましたが、上記の増益ということになっております。

2025年度1Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2025年度 1Q予想	2025年度 1Q実績	業績予想比
売上高	650	699	+49 (+7%)
営業利益	171	181	+10 (+6%)
営業外損益	-6	0	+6
為替差損益	-14	-7	+7
経常利益	165	181	+16 (+10%)
特別損益	0	0	0
純利益※1	122	139	+17 (+14%)
EBITDA※2	-	214	-
EPS(円/株)	-	102.20	-
売上高営業利益率	26.3%	25.9%	-0.4pt
為替レート(円/ドル)	145	145	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 6

続きまして、6 ページでございます。これは業績予想値との比較ということで、業績予想比は一番右の列にございますとおりですが、為替レートにつきましては5月に発表した予想はドル円で145円でございますので、ここは実績としては予想どおりということでございました。

営業利益の増減分析

		2025年度 実績	2024年度 実績	前年同期比	業績予想	業績予想比
		181 億円	144 億円	+37 億円(+25%)	171 億円	+10 億円(+6%)
1Q	化学品	前年同期比	0 億円	ファインオキシコール・環境化学品増収も、固定費等※1増加により利益横ばい		
		業績予想比	1 億円下ぶれ	ファインケミカル上ぶれも基礎化学品下ぶれにより利益若干下ぶれ		
	機能性材料	前年同期比	+11 億円	ディスプレイ・半導体・無機増収により増益		
		業績予想比	1 億円下ぶれ	半導体上ぶれも、固定費等上ぶれ(減益要因)により利益若干下ぶれ		
	農業化学品	前年同期比	+16 億円	フルララネル・ライメイ・アルテア等増収により増益		
		業績予想比	10 億円上ぶれ	ライメイ・アルテア・グレーシア等上ぶれにより利益上ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比	-1 億円	リパロ増収も、固定費等増加により若干減益		
		業績予想比	1 億円上ぶれ	ファインテック上ぶれにより利益若干上ぶれ		

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 7

続きまして 7 ページ、いつもの営業利益のセグメントごとの増減分析でございます。

まず上から化学品でございますけども、前年同期比では、営業利益は前年とほぼ同じ、横ばいということでございます。ファインオキシ、あるいは環境化学品と増収ございましたが、固定費等の増加もございまして、利益としては横ばい。また業績予想比では若干 1 億円の下ぶれということで、ファインケミカルは上ぶれましたが、基礎化学品では若干下ぶれということでございました。

続きまして機能性材料でございますが、前年同期比ではプラス 11 億円の増益。これはディスプレイ・半導体・無機それぞれ増収ということによります増益でございます。業績予想比は 1 億円、若干の下ぶれということで、特に半導体は上ぶれましたけども、固定費等の上ぶれ、これ後ほど申し上げますけども、こういった減益要因も若干ございまして、利益としては若干の下ぶれということでございました。

続きまして農業化学品ですが、前年同期比ではプラス 16 億円の増益ということで、右に記載のとおり、フルララネル、あるいはライメイ、アルテアといったところの増収によりまして増益。また業績予想比でも 10 億円の上ぶれということで、記載のとおり、それぞれ、特に一般農薬のところの上ぶれによる利益の増益がございました。

最後にヘルスケアでございますけども、前年同期比ではマイナス 1 億円。一方業績予想比ではプラス 1 億円の上ぶれということで、ほぼ前年あるいは業績予想比とも想定どおりということかと思えます。

営業外損益・特別損益の内訳



	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比	(億円) 2025年度 1Q予想
受取利息・配当金	2.9	6.4	+3.5	6.4
持分法投資損益	1.3	2.3	+1.0	3.3
為替差損益※1	12.7	-6.7	-19.4	-14.0
支払利息	-1.8	-1.4	+0.4	-2.0
固定資産処分損他	0.9	-0.2	-1.1	0.2
営業外損益	16.0	0.4	-15.6	-6.1
特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 為替レート(円/ドル): 24/3末 151.40、24/6末 161.14、25/3末 149.53、25/6末 144.82

続きまして 8 ページ、営業外損益の内訳でございます。

こちらは左から 2 列目が今回の実績値ということで、特に営業外損益で 0.4 億円とありますけども、この数字は 1 年前の前年同期と比べますと約 16 億円弱の減益要因ということでございました。特に大きいのは上から 3 行目の為替差損益でございます、前年と違ひまして、今期は、先ほど申し上げましたように、円高でございますので、実数値でマイナス 6.7 億円、前年同期比では 20 億円弱の減益要因になっているということでございます。

一方、業績予想、5 月の予想では、一番右にございますように、為替差損益はもう少し膨らむと、14 億円というのを見込んでおりましたので、ここから比べますと結果的には営業外損益は上ぶれ要因になっているということでございます。特別損益についてはゼロということで、変動ございません。

キャッシュ・フロー

2025年度1Q実績のフリー・キャッシュ・フローは130億円となり、前年同期比5億円の増加

(億円)

	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	153	163	+10
税金等調整前純利益	160	181	+21
特別損益(マイナスは益)	0	0	0
減価償却費※1	36	33	-3
法人税等の支払	-47	-89	-42
運転資金増減他	4	38	+34
投資活動によるキャッシュ・フロー	-28	-33	-5
設備投資※2	-32	-47	-15
投資有価証券購入・売却	-1	0	+1
その他	5	14	+9
フリー・キャッシュ・フロー	125	130	+5
財務活動によるキャッシュ・フロー	-17	-77	-60
株主還元(配当)	-130	-142	-12
株主還元(自己株式取得)	-41	-29	+12
有利子負債増減	164	95	-69
その他	-10	-1	+9
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	7	+6
現金及び現金同等物の増減額	110	61	-49
現金及び現金同等物の残高	338	335	-3

※1 のれん償却費を含む ※2 無形資産を含む

9

続きまして9ページ、キャッシュ・フローでございます。

1Qの実績としまして、フリー・キャッシュ・フロー、真ん中やや下にございますけども、130億円ということで、1年前と比較しますと約5億円の増加ということでございました。

営業キャッシュ・フロー、ここが10億円増加ということですが、投資活動によるキャッシュ・フローも若干のキャッシュアウトということでございますが、大勢に影響はございません。また、現預金残高335億円ということで、これもほぼ前年並みということでございました。

貸借対照表

(億円)

	2024年6月末	2025年3月末	2025年6月末	前期末比		2024年6月末	2025年3月末	2025年6月末	前期末比
流動資産	2,122	2,104	2,115	+11	負債	1,087	946	989	+43
現金	338	275	335	+60	買入債務	198	199	195	-4
売上債権	858	891	905	+14	借入金、社債、CP	474	405	498	+93
たな卸資産	833	801	784	-17	その他	415	342	296	-46
その他	93	137	91	-46	純資産	2,271	2,362	2,356	-6
固定資産	1,236	1,204	1,230	+26	株主資本※1	2,085	2,229	2,198	-31
有形固定資産	788	724	738	+14	その他有価証券評価差額金	85	70	81	+11
無形固定資産	108	135	131	-4	為替換算調整勘定	54	18	28	+10
投資有価証券	265	244	260	+16	非支配株主持分	37	29	34	+5
その他	75	101	101	0	退職給付に係る調整累計額	10	16	15	-1
資産合計	3,358	3,308	3,345	+37	負債純資産合計	3,358	3,308	3,345	+37
					自己資本比率	66.5%	70.5%	69.4%	
					ネットD/Eレシオ※2	0.07倍	0.06倍	0.07倍	

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2024年6月末	2025年3月末	2025年6月末	前期末比	参考
上場株式※3	175	156	172	+16	2018年3月末
(単体ベース保有銘柄数)	(24)	(24)	(24)	(0)	300
非上場株式	23	22	22	0	(55)
関係会社株式	67	65	66	+1	17
合計	265	243	260	+17	68
純資産に占める 政策保有株式の割合※4	7.9%	6.9%	7.4%		385
					17.0%

※1 株主資本増減 -31 = 純利益139 - 配当その他170 ※2 ネットD/Eレシオ = (借入金、社債、CP - 現金預金) / 株主資本
 ※3 25/3末 156 + 取得0 + 評価差額16 = 25/6末 172 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)

10

続きまして 10 ページ、バランスシートでございます。

左上の資産の部でございますが、資産合計としましては、この3月末比、これが前期末比というの、一番右の列にございますけれども、約40億円弱の資産増になっております。

一方でたな卸資産でございますが、上から4行目にございますように、前期末比、3月末比では17億円の減少ですが、前年同期の6月末比、24年6月比と比較しますと約50億円程度減少しているということで、ここは順調にたな卸資産の圧縮が進んでいるということでございます。

右が負債、純資産のところ。とりわけ大きな変動はございませんが、自己資本比率としましては69.4%ということで、ほぼ70%前後をキープしているということでございます。

セグメント別 2025年度1Q決算 前年同期比

(億円)

		2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比
化学品	売上高	89	93	+4 (+5%)
	営業利益	7	7	0 (+4%)
機能性材料	売上高	235	259	+24 (+10%)
	営業利益	71	82	+11 (+15%)
農業化学品	売上高	204	266	+62 (+31%)
	営業利益	70	86	+16 (+24%)
ヘルスケア	売上高	15	16	+1 (+7%)
	営業利益	6	5	-1 (-20%)
卸売・その他・調整額	売上高	44	65	+21
	営業利益	-10	1	+11
合計	売上高	587	699	+112 (+19%)
	営業利益	144	181	+37 (+25%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp37,p38参照)

※ 2024年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p39参照)

それでは、セグメントごとに、12 ページが、セグメント別の売上と営業利益の前年同期比でござ
います。後ほどご確認ください。

セグメント別 2025年度1Q決算 業績予想比

		(億円)		
		2025年度 1Q予想	2025年度 1Q実績	業績予想比
化学品	売上高	94	93	-1 (-1%)
	営業利益	8	7	-1 (-11%)
機能性材料	売上高	257	259	+2 (+1%)
	営業利益	83	82	-1 (-1%)
農業化学品	売上高	232	266	+34 (+15%)
	営業利益	76	86	+10 (+14%)
ヘルスケア	売上高	15	16	+1 (+5%)
	営業利益	4	5	+1 (+24%)
卸売・その他・調整額	売上高	52	65	+13
	営業利益	0	1	+1
合計	売上高	650	699	+49 (+7%)
	営業利益	171	181	+10 (+6%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、
調整額：企画本部ほか(内訳はp37,p38参照)

それから 13 ページが、業績予想比でございまして、同様にセグメントごとにお示しをしております。

- ディスプレイ材料は、1Qで前年同期比8%増収、業績予想比では下ぶれ
- 半導体材料は、1Qで前年同期比14%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 無機コロイドは、1Qで前年同期比4%増収、業績予想比では下ぶれ

主要製品	2025年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比
ディスプレイ材料合計	+8%	下ぶれ
半導体材料合計	+14%	上ぶれ
ARC®	+8%	上ぶれ
多層材料	+22%	上ぶれ
EUV材料※1	+20%	上ぶれ
無機コロイド合計	+4%	下ぶれ
機能性材料セグメント合計	+10%	上ぶれ

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

機能性材料のところでございますが、ページ少し飛びまして、16 ページでございます。

まず主要製品の売上高成長率、下の表にございますけども、ディスプレイ、ここは1Qの前年同期比でプラス8%の増収ということでございました。業績予想比では若干の下ぶれということでございます。

それから半導体、ここは前年同期比でプラス14%ということで、業績予想比でも上ぶれております。以下、ARC、多層、EUV材料はそこに記載のとおりでございます。

それから無機コロイド、ここも前年同期比でプラス4%。業績予想比では若干の下ぶれということでございますが、トータルとして機能性材料セグメントでは10%のYoYの増加、また業績予想比でも上ぶれでございました。

	(億円)		
	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比
売上高	235	259	+24
営業利益	71	82	+11

固定費等【1Q】増加4億円

ディスプレイ	【1Q】増収・増益	
	光IPS	増収 (大型モニター、ノートPC向け増収)
	ラビングIPS	減収
	VA	減収

半導体	【1Q】増収・増益	
	先端世代を中心に増収、顧客稼働増	
	ARC [®]	増収
	多層材料	増収
	EUV材料	増収
	三次元実装材料	増収
無機 クロイド	固定費等増加3億円	

無機 クロイド	【1Q】増収・増益	
	スノーテックス(一般用途・研磨剤)増収	

※ 2024年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p39参照)

17

次の 17 ページ。これは前年同期比の売上と利益の概要、それから各サブセグメントのコメントで
ございます。

左のところに、営業利益としては前年同期比でプラス 11 億円の増益ということでございますが、
ディスプレイ、ここが 1Q では増収増益でございました。特に光 IPS、ここが 2 桁の増収というこ
とでございまして、括弧に書いてございますように、大型モニター、あるいはノート PC といった
ところの増収が特に大きかったということですが、それ以外でもタブレット、あるいは車載ともそ
れぞれ伸びを示しております。

一方、特に VA、減収と書いてありますけども、ここはテレビ向け、この辺が顧客サイドでの減産
ということで影響が出ておりますが、トータルとしては光 IPS の増収がカバーをしてお釣りが来た
ということでございます。

右、半導体でございますが、ここも増収増益でございまして、先端世代を中心に増収、顧客稼働増
ということでございました。なお、固定費等増加 3 億円とございますけども、ここは特に純然たる
固定費の増加、あるいは在庫の影響も若干ございましたが、いずれにしても 3 億円程度の費用
増ということになっております。

無機コロイドは増収増益、特にスノーテックス、これは研磨、また一般用途もそれぞれ伸びたということでございました。

機能性材料セグメント

2025年度1Q決算 業績予想比



	2025年度 1Q予想	2025年度 1Q実績	業績予想比
売上高	257	259	+2
営業利益	83	82	-1

(億円)

固定費等【1Q】上ぶれ2億円(減益要因)

【1Q】売上高・営業利益若干下ぶれ

ディスプレイ	光IPS	売上高上ぶれ (大型モニター向け上ぶれ)
	ラビングIPS	売上高上ぶれ
	VA	売上高下ぶれ

【1Q】売上高上ぶれ・営業利益若干下ぶれ

先端世代を中心に売上高上ぶれ、顧客稼働増
一部顧客にて在庫積み増しあり

半導体	ARC®	売上高上ぶれ
	多層材料	売上高上ぶれ
	EUV材料	売上高上ぶれ
	三次元実装材料	売上高下ぶれ

固定費等上ぶれ3億円(減益要因)

【1Q】売上高下ぶれ・営業利益上ぶれ

オルガノ・モノマーゾル、オイル&ガス材料売上高下ぶれ

固定費等下ぶれ1億円(増益要因)

無機
コロイド

18

続きまして18ページは、業績予想比ということで、先ほど申し上げました数字のとおりでございます。

特に右の半導体のところを見ていただきますと、売上高は上ぶれ、営業利益は若干の下ぶれということで、ここは固定費等の上ぶれ、これはほとんど在庫要因でございますけれども、こういったものの3億円が減益要因ということでございました。

■ 1Qで前年同期比31%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品名 (農業:2024年度売上高順)		種類	2025年度 1Q実績	
			前年同期比	業績予想比
農薬	ラウンドアップ※1	除草剤	-4%	下ぶれ
	アルテア	除草剤	+59%	上ぶれ
	グレーシア	殺虫剤	+3%	上ぶれ
	ライメイ	殺菌剤	+138%	上ぶれ
	タルガ	除草剤	+53%	上ぶれ
	パーミット	除草剤	+24%	上ぶれ
	ダイセン	殺菌剤	+42%	上ぶれ
	ベルダー※2	除草剤	-	予想通り
動物薬	フルララネル	動物薬	+31%	予想通り
セグメント合計※3		-	+31%	上ぶれ

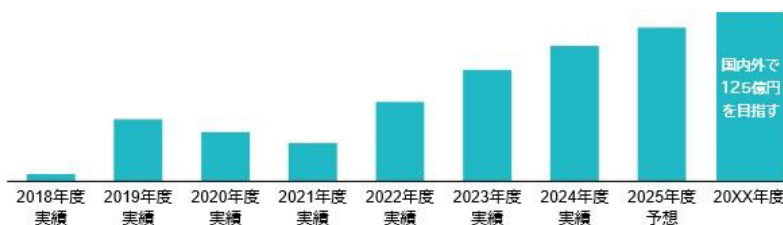
※1 ラウンドアップALは、2025年度1Q実績のラウンドアップ売上高全体の33%を占める

※2 ベルダーは、2024年度4Qに上市

※3 セグメント合計は値引きを含む

■ グレーシア売上高

- 当初のピーク時売上高目標100億円を2024年度に達成
- 2025年5月発表にて125億円へ上方修正



参考

ラウンドアップの現状説明会資料

(2020年1月22日発表)

農業化学品事業説明会資料

(2022年9月28日発表)

続きまして農業化学品でございます。20 ページを見ていただきます。

いつもの表でございますけれども、1Q は、この前年同期比というところからご説明しますと、ラウンドアップがマイナス 4%ということで減収でございましたが、それ以外はかなり好調ということでございました。

また業績予想比でも、ラウンド以外はほぼ上ぶれということでございました。特にアルテア、あるいはライメイ、それからタルガといったようなところがかなり強い伸びを示しておりました。

また動物薬、ここは前年同期比ではプラス 31%ということでございますが、業績予想比では予想どおりということでございました。トータルセグメントとしましてはプラス 31%の前年同期比の売上増ということになっております。

(億円)

	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比
売上高	204	266	+62
営業利益	70	86	+16

固定費等 【1Q】増加13億円(主として在庫変動影響)

【1Q】増収・増益

ラウンドアップ	減収(ML、AL:天候不良により出荷減少)
アルテア	増収(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)
ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)
タルガ	増収(輸出:欧州での需要増)
フルララネル	増収(原薬:24年度から一部出荷後ろ倒しにより増収、ロイヤリティ:減収)

※ 2024年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p39参照)

| 21

続きまして 21 ページは、前年同期比でございます。

売上高でプラス 62 億円、営業利益でプラス 16 億円ということですが、ここには固定費等の影響ということで、やや左下に小さく書いてございますけども、費用増ということで 13 億円の増加が含まれております。この中、主として在庫変動影響と書いてございますが、この 13 億円のうちの約 7 割程度は在庫影響ということでございました。

各製品別では、その下に書いてございますとおり、アルテア、ライメイ、タルガといったようなところが需要増ということで伸びております。またフルララネルは、前回もご説明したかもしれませんが、24 年度から一部出荷の後ろ倒しがありまして、それによって増収ということでした。ロイヤリティは若干の減収ということでございます。

(億円)

	2025年度 1Q予想	2025年度 1Q実績	業績予想比
売上高	232	266	+34
営業利益	76	86	+10

【1Q】売上高・営業利益上ぶれ

ラウンドアップ	下ぶれ(ML、AL:天候不良により出荷減少)
アルテア	上ぶれ(国内:コメ価格高騰に伴う需要増)
グレーシア	上ぶれ(輸出:24年度から一部出荷後ろ倒し)
ライメイ	上ぶれ(輸出:欧州での需要増)
タルガ	上ぶれ(輸出:欧州での需要増)
フルララネル	予想通り(原薬、ロイヤリティ:予想通り)

| 22

次の 22 ページは、業績予想比でございまして、それぞれの剤については記載のとおりでございます。

ラウンドについては、ここに少し書いてございますけども、天候不良によりまして出荷減少ということで、ゴールデンウィーク等の期間中の雨天の影響が少し出ているということでございます。またグレーシアについては上ぶれとありますけども、輸出については 24 年度から一部出荷を後ろ倒しということもございました。フルララネルは予想どおりということでございます。

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(競合製品は1か月程度)
- MAH※¹社とのフルララネルの長期供給契約を延長、新規動物用医薬品創出へ向けた共同研究開発を開始(2025年4月11日ニュースリリース)



※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称

※2 クリイロコイタマダニは8週間

※3 クリイロコイタマダニは11か月

24

次、24 ページでございます。

フルララネルのところで少し記載を追記しておりまして、真ん中の四角の一番下のポツに、犬向け注射剤、BRAVECTO Quantum と呼ばれておりますけども、これがこの7月に米国にて承認をされたということでございます。

■ 前年同期比

(億円)

	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比
売上高	89	93	+4
ファインケミカル	31	34	+3
基礎化学品	58	59	+1
営業利益	7	7	0

固定費等 【1Q】増加1億円

※ 2024年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p39参照)

■ 【1Q】増収・営業利益横ばい

ファインケミカルは、ファインオキシコールと環境化学品で増収

基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)や尿素・アドブルー®で増収も、固定費等の増加により、減益

■ 業績予想比

(億円)

	2025年度 1Q予想	2025年度 1Q実績	業績予想比
売上高	94	93	-1
ファインケミカル	31	34	+3
基礎化学品	63	59	-4
営業利益	8	7	-1

■ 【1Q】売上高・営業利益下ぶれ

ファインケミカルは、ファインオキシコールと環境化学品で売上高上ぶれ

基礎化学品は、硝酸製品(プラントトラブルで4月に製造一時停止)で売上高下ぶれ

| 27

続きまして化学品に参ります。27 ページに飛んでいただきます。

ここには前年同期比と業績予想比、それぞれ2つ、同じページでお示しをしております。まず前年同期比で言えば、そのコメントに少し書いてございますけども、ファインケミカルはファインオキシ、これは化粧品用途等で好調だった。また環境化学品でも輸出を中心に増収になったということでございます。

一方基礎化学品でございますが、高純度硫酸、これは半導体の需要増ということ、また尿素・アドブルーでも増収ということでございますが、固定費等の増加がございまして、若干の減益ということでございます。

それから業績予想比で言えば、このコメントございますとおり、記載のとおりでございますが、特に基礎化学品につきましては硝酸製品、これは4月にプラントトラブルが一時的にございまして、もう既に復旧はもちろんしておりますけども、こういったものがございまして、硝酸製品では売上高の下ぶれということがございました。

このプラントトラブルによります営業利益への影響でございますけども、1Qでは約2億円程度かなということでございます。2Qでも微々たるものということでございまして、このところは比較的軽微な形で済んでいるということになります。

ヘルスケアセグメント 2025年度1Q決算 前年同期比、業績予想比



前年同期比

(億円)

	2024年度 1Q実績	2025年度 1Q実績	前年同期比
売上高	15	16	+1
ヘルスケア	3	5	+2
ファインテック	12	11	-1
営業利益	6	5	-1
ヘルスケア	0	1	+1
ファインテック	6	4	-2

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、
これにより合算値が合わない場合がある

※ 2024年度1Q実績はセグメント区分変更後の数値に
置き換え済み(p39参照)

【1Q】増収・減益

ヘルスケア増収(リパロ輸出増収)、ファインテック減収(顧客在庫調整の影響あり)

業績予想比

(億円)

	2025年度 1Q予想	2025年度 1Q実績	業績予想比
売上高	15	16	+1
ヘルスケア	5	5	0
ファインテック	11	11	0
営業利益	4	5	+1
ヘルスケア	1	1	0
ファインテック	3	4	+1

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、
これにより合算値が合わない場合がある

【1Q】売上高・営業利益上げ

ヘルスケア、ファインテック売上高予想通り

30

最後にヘルスケア、30 ページに飛びます。

ここも前年同期比と業績予想比ということで、それぞれ1億円程度の前後ということでございます。また、この前年同期比で言えば、ファインテックのところでは少し顧客サイドの在庫調整の影響があったということでございまして、そこは前年同期比で若干の減益ということでございましたが、業績予想比では若干のプラスということでございます。

E (環境) S (社会)	2021年4月	ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
	2022年5月	2050年にカーボンニュートラルへ 温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp35参照)
	2022年6月	メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
	2022年6月	気候変動対策委員会設置
	2024年9月	「 統合レポート2024 」を発行
G (ガバナンス)	2019年4月	指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
	2019年6月	取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
	2022年6月	役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7% 業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)
	2025年6月	「 コーポレートガバナンス報告書 」を更新
	2025年6月	女性取締役(社外)2名選任(再任)(取締役は計10名、うち社外4名) 女性監査役(社外)1名選任(新任)(監査役は計4名、うち社外3名)

それから 32 ページ、ESG トピックス。

一番下の行に、この 6 月にございました株主総会によりまして、監査役、ここでは 1 名女性の方にご就任いただいたということでございまして、これによりましてボードメンバー、取締役では社内の中でお 2 人が女性、また監査役では 1 名が女性ということで、計 3 名ということになっております。

セグメント区分変更影響 2024年度セグメント別営業利益

- 2025年度より、新方式でセグメント別営業利益を算出
- DX費用および企画本部の一部費用について、
旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理
- 2024年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済みであり、影響額は以下のとおり

(億円)

	2024年度 実績 (セグメント区分変更前ベース)					2024年度 実績 (セグメント区分変更後ベース)					セグメント区分変更 前後差				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
化学品	7	-11	5	1	2	7	-10	5	2	4	0	+1	0	+1	+2
機能性材料	70	74	79	67	290	71	74	80	68	293	+1	0	+1	+1	+3
農業化学品	69	73	37	77	256	70	74	38	77	259	+1	+1	+1	0	+3
ヘルスケア	6	7	3	3	19	6	7	4	2	19	0	0	+1	-1	0
ヘルスケア	0	1	1	2	4	0	2	1	1	4	0	+1	0	-1	0
ファインテック	6	5	2	2	15	6	5	3	2	16	0	0	+1	0	+1
卸売	10	10	11	10	41	10	10	11	10	41	0	0	0	0	0
その他	1	-1	1	5	6	1	-1	1	5	6	0	0	0	0	0
調整額	-19	-13	-8	-6	-46	-21	-15	-11	-7	-54	-2	-2	-3	-1	-8
合計	144	139	128	157	568	144	139	128	157	568	0	0	0	0	0

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、NC東京ベイ、日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)、日本肥糧、調整額：企画本部ほか

39

最後に 39 ページでございます。少し細かいですが、セグメント区分変更影響を載せております。これは終わった期の 24 年度の数字としてお示しをしておりますが、実際は 25 年度からの新しい方式でセグメント別営業利益を算出しております。

背景としましては、冒頭の 2 つ目のポツにございますように、DX 費用および企画本部の一部費用、これは本来企画本部に帰属すべきものでありましたが、今回きちっと見直しをしまして、旧方式では各セグメントに配賦していたものが、新方式では各セグメントに配賦せず、調整額ということで一括処理をしているということでございます。

影響額についてはその下の表のとおりでございまして、一番右の列の箱を見ていただくと、大体各セグメントで 1~2 億円程度ずれが生じているということでございます。調整額では、最終的にはそれを全て吸収して、合計値としては変わらないということではございます。

この資料にございます 24 年度の実績値については、この新しい方式でもって既に洗い替えをしておるということでございますが、ご参考ということでございます。私からは以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q：農業化学品について、業績予想比で上ぶれの製品が多いですが、米国の関税影響があるのか、また、グローバル市場の地域別動向と、国内での米価高騰の影響について教えてください。

A：米国の関税については、当社の米国向けの売上比率は大きくないので、その影響は限定的です。グローバル市場の動向については、どの地域でも好調に推移しています。国内の米価高騰は、生産者の購入意欲向上に影響しており、当社のアルテア等水稻用除草剤の販売好調に寄与していると考えております。

Q：たな卸資産が前年同期比で減少しているのは農業化学品の影響が大きいのでしょうか。

A：ご認識のとおりです。

Q：機能性材料についても、米国の関税影響がなかったのかを教えてください。

A：一部のディスプレイ材料で多少影響がある可能性がございますが、限定的と考えております。

<質問者 2>

Q：農業化学品について、販売好調とのことですが、流通在庫が増加しているということはないでしょうか。

A：海外では特に欧州で流通在庫の整理が進んでおり、春先の需要も増えていることで当社の出荷は増加しております。日本国内につきましても、6月に流通在庫の状況調査を実施し、大きな問題がないことを確認しております。

<質問者 3>

Q：半導体材料について、EUV の DRAM 向けの適用が、ArF のマルチパターニングにシフトしている状況にあると聞いていますが、御社への影響を教えてください。

A：DRAM における EUV から ArF マルチパターニングへの転換は、一部起こっている状況です。当社としては、EUV の販売は減少しますが、その分 ArF の販売が増加しますので、大きな影響はないと考えております。

<質問者 4>

Q：半導体材料について、EUV 材料と三次元実装材料の状況を、顧客の動向含め教えてください。

A：EUV 材料は、顧客ファウンドリーが回復傾向にあり、当初の予想より上ぶれています。三次元実装材料は、前年比で数量・売上ともに増加していますが、一部顧客で承認の遅れがあり、その影響で業績予想比では下ぶれとなっております。中長期的にこの市場は拡大するという当社の見方に変更はありません。

以上